

研究主題 「児童同士のかかわりを深め、思いや考えを伝え合う力を

高める指導の工夫 －「話すこと・聞くこと」の活動を通して－

東京都教職員研修センター研修部教育経営課

中野区立武蔵台小学校 教諭 鈴木 美紀

I 研究のねらい

好きな遊びを聞くと、一人でゲームをすることを挙げる児童が増えている。けんかになった理由を聞くと、些細なことであったり、ちょっとした言葉の行き違いであったりすることが多い。こうしたことは、人への関心や様々な活動への関心の低さや、人とかかわることを苦手としていることの現れではないだろうか。多様な人とのかかわりを経験する機会が減り、自分や相手の気持ちに向き合い、理解し、言葉で表現する力が十分身に付いていないことによるのではないかと考えた。

小学校学習指導要領（平成 11 年 5 月）や文化審議会答申（平成 16 年 2 月）においても、人間関係をつくる力や伝え合う力の育成が重要であると示されている。

こうした力をはぐくむには、人とかかわる活動や伝え合う経験を重ねることが必要である。本研究では、話し合いの活動の原点である対話活動に着目した。対話は、一対一の活動であり、相手の反応を確かめながら取り組めること、自分の話したことが伝わったかが分かりやすいこと、及び相手の話していることが理解しやすいことなどの利点がある。また、一対多数の活動に比べ、人前で話すことに抵抗感のある児童の気持ちの負担も軽くして取り組むことができる。対話の指導の方法を工夫することで、人とのかかわりを深め、思いや考えを伝え合う力を高めることができると考え、研究を進めることとした。

II 研究の内容と方法

1 基礎研究

(1) 文献や先行研究

- 人とかかわろうとする行動は、働きかけに対しての適切な反応の積み重ねの中で豊かになり、人はかかわりを通して心を通い合わせ、感情を交流させている。
- 児童は仲間からの受容・承認あるいは拒否・排斥などを通して、つまり、様々なかかわりを通して自分の感情と統制する方法や自信や自尊感情を獲得していく。
- 話し合い活動において聞き手にこそコミュニケーションの起点がある。聞き手の姿勢や理解力を高めることで、話し手は自信や自己肯定感がはぐくまれ、かかわりも深まる。
- 対話には、共感を目的とした受容的な対話と、問題を明確化したり解決したりするための対論的な対話がある。どちらにおいても、「聞く」「話す」の他に相手の話を受け止めて返す「応じる」力が極めて重要である。
- コミュニケーション能力を高めるためには、児童の実態を直視した上で、段階的な学習を行うことが大切である。高さの低い階段を数多く用意することが大切である。（この学習の階段をスモールステップと呼ぶ。）

(2) 研究仮説及び本研究における言葉の意味

【研究仮説】児童同士のかかわりを深める活動を意図的・計画的に取り入れて、関心・意欲を高め自信を付けることにより、思いや考えを伝え合う力を高めることができるであろう。

児童同士のかかわる力	「相手を意識したり、受け入れたりして、ともに活動する力」
伝え合う力	「情報を伝達するだけでなく、お互いの意見や気持ちを認め合う、分かり合う、高め合う力」
思い	「経験したときに生じる気持ち」
考え	「経験したことを振り返り、筋道を追って答えるために判断しまとめ直した内容」

「児童同士のかかわりを深め、思いや考えを伝え合う力を高める指導の工夫
 - 「話すこと・聞くこと」の活動を通して-

2 教材開発

帯単元や朝学習の時間に取り組むのに適した児童同士のかかわり活動や対話の話題を開発した。児童にとって身近であり、自己肯定感や相手意識が高まる活動や話題を考えた。【補助資料】

3 検証授業

(1) 「わくわくお話タイム」の実施

朝学習の時間に関発した話題を用いて、対話活動「わくわくお話タイム」を実施した。開発単元の学習に先立ち、既習事項の再確認と定着をねらいとした。また、児童の実態把握も同時に行った。その結果、特定の児童同士での対話は充実感を味わっていたことが分かった。しかし、活動に関心がもてない児童や、2、3文の話で終わってしまう児童も見られた。このことから、友達とかかわる経験を増やし、話したり聞いたりすることへの関心・意欲や自信を高める手だてを取る必要がある。

(2) 授業研究

対象	第3学年	
単元名	「3年2組友達度アップ大作戦 - 友達クイズを作ろう - (4時間扱い)」	
単元の目標	○友達クイズを作るため、すすんでインタビューする。 ○質問に対して伝えたいことを正しく工夫して話す。 ○友達の話の中心に気を付けて聞く。	
単元の評価規準		
国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
・繰り返し友達にインタビューしたり、友達のインタビューにはっきりと答えたりしようとしている。	・友達に尋ねられたことに対して、話題からそれずに簡潔に正しく答えている。 ・次の質問につなげられるように、友達の返答の内容の中心に気を付けて聞いている。	・インタビューの内容や返答が相手に正しく伝わるように、声の大きさや速さについて考えながら話している。

① 単元の展開と研究主題に迫るための手だて

指導の工夫を「経験を重ねる工夫」「関心・意欲を高める工夫」「話すこと・聞くことに対する自信を付ける工夫」という三つの柱を立てて進めた。

時	経験を重ねる工夫	関心・意欲を高める工夫	「話すこと・聞くこと」に対する自信を付ける工夫
1	<p>・お手玉キャッチボール 児童と教師間でお手玉を使ってキャッチボールを行う。</p> <p>「お手玉キャッチボール」 ① 相手に体を向け名前を呼ぶ。 ② 呼ばれたら体をその方向に向けて返事をする。 ③ 相手が受けとりやすいようにお手玉をパスする。</p> <p>・インタビュー 答え方に重点をおく。体の向きや二者間の間隔について考えさせる。</p> <p>・話題の工夫 ① 相手意識、目的意識が明確にもてるようクイズを作ることを知らせる。 ② どの児童も取り組みやすいようにインタビューの内容を「好きな遊び」にしよう。</p>	<p>・「わくわくお便り」 学習の始めに、実態把握で行った対話活動での振り返りと本単元のねらいを伝える。</p> <p>「わくわくお便り」 前時の学習の振り返り・本時の学習での期待や児童の振り返りカードの記述を載せた児童向けの通信を発行する。</p> <p>・本時のねらいを明確にし評価する。 ① 話題からそれない。 ② 短く話す。 ③ 理由は具体的に話す。 ④ 声の大きさや速さに気を付けて話す。</p> <p>「ワークシートの活用」 本時のねらいを示す。授業の終わりには、短時間で評価できるように記号に○を付ける。自由記述欄も設ける。</p> <p>・モデルのよさを見付ける 教師と児童で対話のモデルを行う。モデルとなった児童のよかった点を発表させる。</p>	<p>・共感的に聞く態度の7つのポイント 7つのうち、はじめに身に付けさせたい基本の5点を知らせる。</p> <p>◎相手を見る。 ◎最後まで聞く。 ◎うなずいたり、相づちを打ったりする。 ◎表情で表す。 ◎言葉につまってもあわてずに待つ。 ○聞き取ることができなかった時は、聞き返す。 ○相手の言葉を繰り返す。</p> <p>< 答えたくないときの気持ちを尊重する。 > 答えたくない質問があったときにはその気持ちをきちんと話し、聞き手は無理強いしないことを伝える。</p> <p>・段階を踏まえた指導 ① 対話のモデルを見る。 ② 2人組で取り組む。 ③ 振り返る。</p> <p>・個に応じた支援を行う 質問の例を示す。</p> <p>段階を踏まえた指導 1時間の流れと単元の流れをスモールステップで計画する。1時間の流れでは、「モデルの観察→取組み→振り返り」を基本とする。単元の流れも、「練習→本番→修正・仲間応援」とする。</p>

時	経験を重ねる工夫	関心・意欲を高める工夫	「話すこと・聞くこと」に対する自信を付ける工夫
2	<p>・お手玉キャッチボール 前回キャッチできなかった児童と教師でキャッチボールを行う。</p> <p>・インタビュー 聞き方に重点をおく。</p> <p>・話題の工夫 どの児童にも取り組みやすいようにインタビューの内容を「好きな食べ物」にしぼる。</p>	<p>・「わくわくお便り」 学習の始めに、前回の学習のよかった点と児童の振り返りカードの記述を記載する。</p> <p>・本時のねらいを明確にし、評価する。 ① しっかり聞く ② 短い言葉でメモを取りながら聞く。</p> <p>・ワークシートの活用 ・モデルのよさを見付ける。</p> <p>・教師の言葉かけによる評価 前時に比べ、個々の児童の高まった点をその都度認める。</p>	<p>・共感的に聞く態度の7つのポイント 「聞いてもらっている」という安心感を相手に与える2点について知らせる。</p> <p>○相手を見る。 ○最後まで聞く。 ○うなずいたり、相づちを打ったりする。 ○表情で表す。 ○言葉につまってもあわてずに待つ。 ◎聞き取ることができなかった時は、聞き返す。 ◎相手の言葉を繰り返す。</p> <p>・段階を踏まえた指導 ① 話のモデルを見る。 ② 4人組になり、2人組の対話の様子を見合う。 ③ 振り返る。</p> <p>・個に応じた支援を行う 質問の例を示す。</p>
3	<p>・お手玉キャッチボール 児童同士で自由にキャッチボールを行う。</p> <p>・インタビュー すずんで多くの友達と行うことに重点をおく。</p> <p>・話題の工夫 インタビューの内容についてどのようなものがあるか全員で出し合う。</p>	<p>・「わくわくお便り」 ・本時のねらいを明確にし、評価する。 すずんでインタビューをし合う。</p> <p>・ワークシートの活用 ・教師の言葉かけによる評価</p> <p><友達と組む時の注意> いろいろな相手と組むことのよさを伝え、不快な言葉かけをしないよう伝える。 <待合いコーナー> インタビューの相手が見付からない場合に、そのコーナーに行き、相手を見付ける場所であることを知らせる。</p>	<p>・共感的に聞く態度の7つのポイント 前時までの学習を振り返り、確認する。</p> <p>・段階を踏まえた指導 前時までの学習を生かして繰り返しインタビューを行う。</p> <p>・個に応じた支援を行う インタビューの内容の例を示す。</p>
4	<p>・お手玉キャッチボール ささまざまな児童に回すよう言葉をかけてから、児童同士のキャッチボールを行う。</p> <p>・クイズ インタビューを基にクイズを出し合う。</p> <p>・インタビュー クイズを行ってみて、さらに必要なことをインタビューする。</p>	<p>・「わくわくお便り」</p> <p>・本時のねらいを明確にし、評価する。 よいクイズを作るためにさらにインタビューを重ねる。</p> <p>・ワークシートの活用</p>	<p>・共感的に聞く態度の7つのポイント 今までのポイントの確認とクイズを出し合うときは途中で勝手に答えないことも付け加える。</p> <p>・写真を掲示 前時のインタビューの様子の写真を黒板に貼り、よいところを見付けさせる。</p> <p>・段階を踏まえた指導 前時までの学習を生かして繰り返しインタビューを行う。</p> <p>・個に応じた支援を行う クイズカードの例を示す。</p>

② 検証授業での成果と課題

ア 経験を重ねる工夫について

開発単元の前に「わくわくお話タイム」という対話活動を行ったことは、児童が既習の学習内容を思い出すことことに有効であった。開発単元の授業の際に児童は、「わくわくお話タイムでやった。」と話しながら取り組むなど、既習したことを意識して取り組むことができた。また、この活動を活用し、児童の実態を効果的に把握することができた。さらに、既存の単元の学習の前後にこうした短時間の対話活動を組み入れた単元構成の工夫を図ることが課題である。

また、開発したかかわり活動の中から、「お手玉キャッチボール」を毎時間の始まりに行った。「お手玉キャッチボール」は、相手意識を高め、行為や感情を共有する経験である。「お手玉キャッチで人の気持ちがよく分かるようになった。ボールの速さで気持ちが

「児童同士のかかわりを深め、思いや考えを伝え合う力を高める指導の工夫

－「話すこと・聞くこと」の活動を通して－

伝わってくるのが分かった。」という感想から分かるように、感情の交流や共感的姿勢の育成に有効であった。さらに授業の開始時に行うことで、緊張感をほぐし、授業に取り組む姿勢づくりにも役立った。インタビューでは、多くの友達にかかわり、友達の意外な一面を発見したり、自分との共通点に気付いたりした。振り返りの感想をみると、学習が進むにつれて取り組んだ相手を明記し、友達のよさを具体的に記述することができるようになっていく。活動を通して、相手を意識し、児童同士のかかわりを深めることができたと考えられる。

イ 関心・意欲を高める工夫について

学習活動を明確にするために、ワークシートに焦点化した本時のねらいを示し授業後に評価を行った。インタビューの進行に自信をもちながら、答えを正確に聞き取り、次の質問につなげることができた。また、自己評価や相互評価の記述を「わくわくお便り」という通信に載せた。友達や教師から肯定的評価を受けていることを知った時の児童の表情や、自己評価での達成感の変化から自尊感情の高まりを確認できた。達成できたと記入した児童は、始めは全体の84%であったが、4時間目には93%と向上した。さらに、個々の学習状況を学級全体に知らせることは、次の授業への意欲になり、学びの広がりにつながった。

ウ 「話すこと・聞くこと」に対する自信を付ける工夫について

聞き手の育成に重点をおいたことは、抵抗感のある児童にとっても有効であった。共感的に聞くためのポイントを具体的な行動として表し、モデルや写真で示したことは、児童にとって分かりやすく、行動に移しやすかった。そのため、最後まで聞いたり、相手をしっかり見て聞いたりする姿が増えていった。また、聞いたことを基に次の質問に答えることで「聞いている」という達成感を味わわせることができた。こうした聞き手の成長は、話し手に安心感や信頼感をもたせることができた。「相手を見て話した方が聞いてくれると学習したけれど、その通りだった。」といったような記述が多く、振り返りカードに書かれており、聞き手の育成は話し手の関心・意欲や技能面の向上にもつながったと考えられる。

スモールステップでの段階を踏まえた指導は、自分にもできるという自信や、やりたいという意欲につながり、確実に身に付けることができた。個に応じた支援では、例を用意したことですぐに思いつかない児童でも、滞りなくインタビューを進められ、思いや考えを伝え合うことができた。このように達成感を味わわせることで、自信を深めることとなった。今後は、例がなくても、その場に応じた質問ができるようにすることが課題である。

Ⅲ 研究の結果と考察

- 1 児童同士のかかわりの活動や対話の指導を意図的・計画的に取り入れることで、関心・意欲を高め児童に自信をもたせることができた。このことにより、対話の技能も向上し、伝え合う力を高めることができた。
- 2 さらに話題を精選し、思いや考えを伝え合う活動を取り入れること、個々の学習状況の把握と評価の方法を工夫することが必要である。

Ⅳ 今後の課題

- ・ かかわり活動や話題の開発を行い、年間を見通しての単元開発を行うことが必要である。
- ・ 本単元で学習したことを他教科や生活の場面で生かしていくための指導を工夫する。

【補助資料1】

「児童同士のかかわりを深め、思いや考えを伝え合う力を高める指導の工夫
 - 「話すこと・聞くこと」の活動を通して-

(1) かかわり活動の例（主に中学年）

友達とかかわる活動を通して、自然な感じで相手に声をかけたり、相手の反応を受け止めたりすることができるようになると考えられる。

かかわり活動	行い方	行う時期や注意点など
お手玉 キャッチボール	お手玉を使ってパスし合う活動。 ① パスしたい相手に体を向けて名前を呼ぶ。 ② 呼ばれたら体をその方向に向けて、返事をする。 ③ 相手が受け取りやすいようにパスする。	○学年の初めなどの学級作りに活用できる。 ○パスするボールの速さ、強さを受け取る側の気持ちを想像して行うよう助言する。
もじもじゲーム	文字カードを使って言葉を作る活動。 ① 1枚に一文字だけ書き入れたカードを作っておく。 ② カードを裏にしてばらばらに広げておく。 ③ 合図で一人1枚のカードを取る。 ④ 次の合図で、自分のカードの文字を見て、友達の文字と合わせて、言葉を作る。作れたら、合格。 *初めは、どんな言葉でもよしとし、慣れてきたら「野菜」や「動物」などと条件を付けてもよい。	○学年の初めなどの学級作りに活用できる。 ○できずに余った文字もどこかの言葉に付け足して別の言葉が作れないかみんなで作るのもよい。
話さない話	身振り手振りで伝える活動。 ① 自分の気持ち（嬉しい・つまらない・おこっている）や体の状態（おなかがすいている・痛い・かゆい）など、声を出さずに身振り手振りで伝える。 ② 当たったら交替して取り組む。 *1対1やグループ・学級など、行う形態を変えてもよい。	○児童同士が少し慣れてきたころがよい。 ○全身を使って表す楽しさを味わう。
握手で こんにちは	声をかけあい、身体的な触れ合いのある活動。 ① 開始の合図とともに自由に歩き回る。 ② 「止まれ」の合図で止まり、自分の近くにいる人と握手をして、「こんにちは」などのあいさつをする。 ③ 次の合図でまた、自由に歩き回り、「止まれ」の合図で同じように握手とあいさつを繰り返す。 *慣れてきたらあいさつの代わりに、「今朝の起床時間」や「運動会で楽しんでいること」など、一言で話せる話題にするなど工夫してもよい。ただし、これは話すことより、あくまでも活動そのものに重点をおきたい。	○児童同士が少し慣れてきたころがよい。 ○実態により、握手ではなく、肩をポンとたたくなど工夫してもよい。
わお！ほどこう	身体的な触れ合いの活動。 ① 十数名で1チームとし、2チーム作る。 ② 各チームから、1人を「知恵の輪」を解く者として選び、廊下など見えないところに出て待つ。 ③ 残りのメンバーが手をつなぎ、輪になった後、手を離さないように、手と手の間をくぐったりまたいだりして、知恵の輪を作る。 ④ 合図で解く者を呼び入れ、解く者は、「ここを潜って。」等と指示を出して、解く。早く解けたチームの勝ち。	○児童同士が少し慣れてきたころがよい。 ○高学年でも、興味をもって行うことが多い。

「児童同士のかかわりを深め、思いや考えを伝え合う力を高める指導の工夫
 - 「話すこと・聞くこと」の活動を通して -

【補助資料 2】

(2) 対話の話題の例 (主に中学年)

話題についてはどの児童も話すことを考えておけるように前もって伝えておく。実態に合わせて前もってメモを書かせてもよい。

※表の色が濃くなるにつれて、「自分」→「相手」→「2人」となる。児童の発達や実施時期を考慮して組み合わせる。

話題名	話の内容	対話のねらい
私のこと、 教えます	自分のことを人に紹介する。知ってもらいたいことは何であるか、自分自身を振り返って話す。住んでいる所、趣味、家族、性格などや、それぞれにまつわるエピソードでもよい。	分かり合うことで安心感をもたせる
私の好きな○○	○○には、「動物」や「スポーツ」などをあてはめる。そのものの説明や好きな理由・まつわる思い出とその時の気持ちなど一つの話題にしぼって話したり、質問し合ったりする。	分かり合うことで安心感をもたせる
私のがんばっていること	自分が頑張っていることを紹介する。いつ、どのように行っているのか、なぜそれを頑張っているのかを話す。	聞き手には、相手のよさを確認させ、話し手は自分自身に自信をもたせる。
私の夏休み (冬休み)	休み中の心に残ったことを紹介する。	離れていた期間の友達の体験を知らせることで、さらに友達を理解させる。
私のくやし かったこと	くやしかった経験を振り返り、話す。ただ、特定の個人を傷つけるようなことは避ける約束をして行う。	話をするために、客観的に振り返らせる。また、マイナスの感情とのつきあい方や表現の仕方を考えさせる。
あなたは スター	相手のよいところを見つけて伝える。どんなところがよいのか、いつそのように思ったのか、なぜ思ったのかを話す。内面だけでなく、外面も考える。	聞き手に、認められることを実感させ自信をもたせる。同時に認めてくれている児童に心を開かせる。
あなたへの プレゼント	もし、相手に贈り物をするとしたら、何をするのかを話す。なぜその贈り物なのか、理由も添える	話し手が、どのように聞き手を理解していたかを伝えることで、安心感や信頼感を育てる。
あなたへの ありがとう	1週間、1か月、1学期間などと期間を決めて振り返り、何気ない一言やさりげない行いで嬉しかったことを思い出し、感謝の気持ちを伝える。	友達に認められる経験をすることで自己肯定感を高め、相手への信頼感も高める。
どちらが 好き?	相対する2つのものを取り上げ、自分の好きなものはどちらであるか、説明する。相手と同じところ、違うところを知る。	違いがあってもよいことを改めて知らせる。
相談して 決めよう	相対する2つのものを取り上げ、自分の好きなものはどちらであるか、説明する。相手と同じところ、違うところを知る。	理由を出し合い、一つに決めるための歩み寄り方などを経験させる。